



誰が支配しているのでしょうか？

Who's in control?

体の機能がおかしくなっていることが、心配ですか。組織がどのように運営されているか、心配ですか。あるいは、国の経済や健康保険制度の先行きが、心配ですか。これらの懸念は、「誰が支配しているのか」という一つの根源の問題に、集約されるのではないのでしょうか。

最近、私は、編集部の同僚たちと、世界各地から来て、夏期の研修生として母教会で働いている若者たちと会いました。彼らの挙げた問題の一つが、「自分たちも同世代の若者たちも、自分の将来を自分でコントロールできないのではないかと感じている」、というものでした。大荒れの経済や社会状況は、特にこれから就職しようとする人たちに、先が見えないという感覚を与えています。*Christian Science Sentinel* の記事のテーマとして、ある研修生は、「『卒業後、奈落の底に突き落とされる恐怖』というのはどうでしょう」と提案しました。

これは、論点を率直に突いていると思います。それにしても、産業全体が収縮して、貴重とされていた従業員でさえ、突然に職を失うという今日、卒業後、そういうことも十分に

Author's Name / Warren Bolon

他の日本語記事については、次をご覧ください! <http://www.spirituality.com/christiansciencesakigake/index.jhtml>

© 2010 The Christian Science Publishing Society (CSPS)
この記事は、50部までプリントアウトして、非営利として実費で提供することができます。この記事を手紙 (email) で送ったり、ウェブサイトに載せたりすることはできません。代わりに、CSPSのウェブサイトに掲載されているこの記事へのリンクを、メールしたり、ウェブサイトに載せたりしてください。この記事を手紙に転載する許可を得るには、copyright@csp.com宛に、メールをお送りください。件名は、英語で "Copyright Request" としてください。

あり得るでしょう。また、ずっと続くと思っていた人間関係のなかで、突然一人が抜け出してしまふこともあり得るでしょう。こんなとき、誰が、あるいは、何が、支配しているのでしょうか。私たちは、あのアメリカ映画 *Forrest Gump* 「フォーレスト・ガンプ」に出てくる、空中を舞う鳥の羽のように、自分の力の及ばないさまざまな出来事によって、人生が翻ろうされる登場人物のようなものなのではないでしょうか。

それとも、真に、いつでも、どこにでも存在し、常に加護してくれる**生命の原理**が、あるのでしょうか。大きなオーケストラの中で、私たちの存在を示す音を、他のすべての音にぴったり合わせ、公平に愛し導き、決して間違ふことがない、そんな支配の源があるのでしょうか。**キリスト教科学**は、はい、ありますとも、それが正に**神**であり、**神**のなすことです、と答えます。

この支配力についての**神性科学**は、私たちが苦勞して獲得した統御力は、決して私たち個人が我がものとして所有することができるものではないこと、ましてや創造し得るものでもないことを、示します。支配力は、その靈的意味において、個人が所有するものではなく、また、「ある人は持っている、他の人は持っていない」というような事柄のものでもないのです。支配力は、その神性の源に属しています。しかしながら、誰でも、必要な時には、いつでも、より大きな支配力を示すことができるのです、なぜなら、それは、すべての人の組成に属する、靈的知性から派生するものだからです。私たちは、支配力の生ずる本当の源の完全さを垣間みるだけで、私たち自身が反映しているゆえに持っている完全性について、もっと良く知ることができます。つまり、それは、**神**に創造されている人、

Author's Name / Warren Bolon

ひとりひとりが、落ち着きと、穏やかさと、自律によって、**神**を現すために所有している能力なのです。

従来、支配力は、人間の自己主張とか、個人の力によって決められてきました、それは時に内的なものであることもありますが、一般に、雄々しさとか、高慢な態度に関するものとされてきました。こういった見方は、本質的に、人間をすべての中心に据え、**神**については、その存在があるにしても、どこか「離れたところ」に置きやるものなのです。メリー・ペーカー・エディは、物質主義の生命に関する見解とはまったく対照的に、霊的な自己を次のように定義しています：「自らの生命・知性・創造力は持たないが、**造り主**に属するものすべてを、霊的に反映するもの」（『**科学と健康**—付聖書の鍵』、p. 475）。そして、彼女は、この**造り主**が**心**であると定義した上で、「神性の知性に支配されているので、人は調和していて、永遠である」（『**科学と健康**』、p.184）と結論づけています。

イエスは、この存在について明らかにされた真理を、誰よりもよく生きました。イエスの生涯は、**父-母**が支配する慈しみを、具体的に現しました。彼が行なったこと、水の上を歩いたり、病気を速やかに治したり、人を死からよみがえらせたりしたことは、奇跡のように思われます。しかし、イエスの時代の人々、またそれ以降の人々も、物理学も、生理学も、そして、「もろもろの恐れ之王」にしても、究極の権威を持っていないことを証明しているのです。**生命**がそれを持っているのです。唯一の**生命**である**原理**が、生きるものすべてを、そして、その永遠の本性を現すものすべてを、支配し、維持しているのです。

Author's Name / Warren Bolon

生理学は、人間の体は、自力で働く組織であり、それはまた時を経て、退化する組織であると主張するかもしれません。聖書の**科学**は、体は、思考状態が客観化されたものであることを明らかにしています。祈りが、**神**の一新させる影響力、つまり**キリスト**、を受け入れると、思考が改善され、**キリスト**によって再生された思考は、完璧な、また正常な機能という結果をもたらします。

しかし、本当の癒し、つまり、健康についての純粋な平安、人生の次の段階、また、私たちが世界全体のシステムにどのように適合できるかということについては、「(私たちの) **造り主**に属するものすべて」を垣間みることによって、得られるのです。自分を**神**に属するものとして見るならば、つまり、常に愛され、採用されているものとして見るならば、自分で支配したいという願望は、すべて消えていくことでしょう。

編集主幹

ウォレン・ボロン

Warren Bolon

Author's Name / Warren Bolon